

2018年度事業報告書
(2018年1月1日～12月31日)

特定非営利活動法人 国連ウィメン日本協会

I 事業の成果

新執行体制となった本年度は、UN Women への募金・寄付活動と UN Women の広報活動を柱に、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けて、団体・企業・自治体等との連携を進め、UN Women への協力促進を図りました。

特に、初めてクラウドファンディングに取り組む等、募金・寄付活動を積極的に進めました。

また、UN Women との改定承認協定の締結に向け、先ず専門家に依頼し日本語訳を作成、他団体への訪問等で情報収集も行い、2019年～2020年BPP(隔年パートナー計画)をUN Women に提出しました。

UN Women 国内委員会ミーティング、その他の国際会議へ代表を派遣するとともに、来日したUN Women 担当者等との会合をもち、UN Women との連携を深め、国際的な活動の充実に努めました。

国内での女性のエンパワーメントや地位向上のための活動にも取り組み、内閣府の国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業において、内閣府との共催でシンポジウムを開催しました。

II 事業内容

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 日本の社会に UN Women についての理解を深めるための広報活動事業

ア 情報発信広報啓発普及事業

- ・内容 ① UN Women 本部、日本協会、協力協定団体の活動を関係者に広報するために、ニューズレター「国連ウィメン日本協会」を制作、発行
14号(1月:3,300部)、15号(6月:3,300部)
- ② ホームページ「国連ウィメン日本協会」の適時更新
- ③ 寄付活動を促進するために Web でのランディングページの作成・公開
<http://www.unwomen-nc.jp/donation/>
- ④ 日本協会のバナー・募金箱を作成し、協力協定団体に配布した。
- ⑤ UN Women 本部からのニュースリリース等を随時翻訳し、ホームページに掲載、その他資料等を随時翻訳した。
- ⑥ メールマガジンを発行し募金・情報の発信に努めた。登録者数 500 人
第 40 号(1月)から第 43 号(12月)、臨時に 3 号発行。全 7 回
- ⑦ UN Women 及び国連ウィメン日本協会を各地で広報
 - ・ 理事長 「日本の人間の安全保障」指針 発表記念シンポジウム
第 2 部 パネル討議でのコメンテーターとして
日時:12月15日(土) 場所:ユニセフハウス
 - ・ 理事 「本当の『女性活躍』とは? G7の主要課題となったジェンダー平等」報告者として
日時:5月22日(火) 場所:文京区民センター
 - ・ 理事 「G20 女性活躍、そして SDGs ゴール 5 へ ～ジェンダー・ギャップを解消するために～」パネリストとして
日時:12月6日(木) 場所:参議院議員会館 講堂

- ・ 日時 通年
- ・ 場所 全国
- ・ 従事者人員 約 20 人

- ・受益対象者 一般市民 多数
- ・支出額 1, 695, 772円

イ 情報提供・理解促進のための各種事業

内容 UN Women 及び国連ウィメン日本協会の活動を広報（情報提供含）するため国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業の一環として、シンポジウムを省庁・大学・団体等の協力を得て実施した。
「自分を受け入れ自分を認め、一歩踏み出す“キキ”の魅力と“自己肯定感”」
基調講演「キキの物語」

講師：角野栄子（作家・「魔女の宅急便」シリーズ著者）

鼎談「自己肯定感をはぐくむには」

- ・海原純子（日本医科大学特任教授、医学博士・エッセイスト）
- ・坂東眞理子（昭和女子大学理事長・総長）兼コーディネーター
- ・松本晃（RIZAP グループ(株)代表取締役）

- ・日時 12月1日（土）14:00～16:30
- ・場所 津田塾大学
- ・従事者人員 17人
- ・受益対象者 270人
- ・支出額 557, 369円

(2) 関係機関・団体に対する UN Women への協力促進活動事業

ア 国際的な協力・連携事業

内容 ①UN Women 国内委員会 ミーティング(第62回国連婦人の地位委員会(CSW)期間中と各国持ち回りで秋に開催)に理事が参加

②UN Women 事務局次長オーサ・レグナー氏との会合

③UN Women ヨルダン事務所長ジアド氏との会合

④パタマー・キャピタルマネージングパートナー ボーデアン・シール氏との会合

⑤中華全国婦女連合会との会合

- ・日時 ①3月14日、10月29日～11月2日 ②6月14日（木）
③7月5日（木） ④11月21日（水） ⑤12月13日（木）
- ・場所 ①米国（ニューヨーク）、フィージー
②日本プレスセンタービル ③渋谷アイビスビル ④男女共同参画センター横浜 ⑤日本橋公会堂
- ・従事者人員 ①各1人 ②8人 ③7人 ④2人 ⑤3人
- ・受益対象者 ①～⑤世界の女性
- ・支出額 合計 831, 654円

イ UN Women 日本事務所との協力・連携事業

内容 UN Women 日本事務所との会合

- ・日時 4月17日（火）
- ・場所 UN Women 日本事務所
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 世界の女性
- ・支出額 25, 005円

ウ 外務省を始めとし各省庁・自治体・団体等との協力促進・連携事業

内容 ①スポーツ庁が実施しているスポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムに会員として継続して参加

- ②内閣府男女共同参画推進連携会議に団体推薦議員として理事が参加
- ③WE P s（女性のエンパワーメント原則）を推進する「WE P s 日本連絡会」（構成団体：国連ウィメン日本協会、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）、日本BPW 連合会、UN Women 日本事務所）に理事が参加し WE P s の啓発・推進に関わった。

- ・日時 随時
- ・場所 各省庁 他
- ・従事者人員 延べ10人
- ・受益対象者 一般市民
- ・支出額 合計 100,783円

(3) 募金活動による UN Women への支援活動事業

ア UN Women への拠出のための（募金・寄付による）ファンドレイジング事業
内容 UN Women 募金・寄付金

年間を通して、正会員、協力協定団体などによる募金・寄付活動が活発に行われた。企業等に働きかけ、企業や団体、個人から寄付があった。

2018年度 UN Women 通常募金・寄付金総額 6,433,439円

2018年度 UN Women への拠出金額 4,899,250円

（2018年8月クラウドファンディングで集めた308,682円は送金済2019年5月4,590,568円を UN Women へ支援プロジェクトを指定し送金予定）

2017年度 UN Women 拠出金 3,566,038円（32,433.27ドル）を2018年5月7日に支援プロジェクトを指定し UN Women へ送金した。

2017年度拠出金による支援プロジェクト」

- ・ UN Women バングラディッシュ事務所「ロヒンギャ難民女性・少女支援プロジェクト」

2,566,038円（23,338.23ドル）

- ・コア 1,000,000円（9,095.04ドル）

- ・日時 募金・寄付は通年
- ・場所 全国
- ・従事者人員 21人
- ・受益対象者 世界の女性
- ・支出額 35,728,092円（資生堂と本部との事業費含む）

(4) UN Women 及び国連ウィメン日本協会の名称・ロゴ使用に関する業務事業

ア UN Women 及び国連ウィメン日本協会の名称・ロゴの管理事業

- ・内容 UN Women 及び国連ウィメン日本協会・協力協定団体の名称・ロゴの使用に関し、協力協定団体、企業等に周知を図り管理・監督に努めた。

協力協定団体については、ネットワーク会議を開催し、名称・ロゴの使用に関して周知を図ると共に、各団体活動報告、情報・意見交換等を行った。

- ・日時 2月24日（土）14:30～16:30
- ・場所 婦選会館
- ・従事者人員 18人
- ・受益対象者 一般市民 協力協定団体会員
- ・支出額 160,810円

2 その他の事業

- (1) その他募金活動に関連する収益事業
本年度は実施していません。